

JCI-TC-183A「接合部を有するプレキャスト・プレストレストコンクリート構造の設計法研究委員会」
第1回全体委員会 議事録（案）

日時 2018年7月26日（木）15：00～17：00

場所 日本コンクリート工学会第5会議室（11F）

出席者（敬称略）：三木（委員長）、大島、谷、竹内の各幹事、小坂、福田、大窪、坂田、市澤、島田、
北原、幸田、村田、松原、JCI事務局 岡田

欠席者（敬称略）：丸田、杉本、大城、前田、尹

資料

1-1 第1回全体委員会議事次第

1-2 委員会名簿

1-3 委員会趣旨、目的（JCI研究委員会資料）

1-4 現場打ち同等型プレキャスト鉄筋コンクリート構造設計指針（案）（2002）の概要

1-5 話題提供 土木分野

議題

1. 自己紹介

- ・委員長、幹事、委員の自己紹介を行った。資料1-2の委員会名簿に変更があれば、事務局の岡田氏に連絡する。

2. 委員会趣旨説明

- ・三木委員長より資料1-3に沿って委員会の趣旨説明が行われた。2年間の委員会の期間の内、1年目は資料中の活動内容1、3の文献調査を先行して進めていく予定である。

3. 話題提供（建築分野）：坂田委員

- ・PC（プレキャストコンクリート）工法による集合住宅の建設について、PC工法の歴史、各工法（W-PC工法、R-PC工法、WR-PC工法）の特徴、PC工法に関する参考資料（日本建築学会、プレハブ建築協会）の説明があった。
- ・質疑では、接合部に関する実験データの見方や、接合部の詳細について、PC工法による工期短縮のメカニズム等に対して、議論が行われた。

4. 話題提供（建築分野）：谷幹事（資料1-4）

- ・2002年に日本建築学会から刊行された「現場打ち同等型プレキャスト鉄筋コンクリート構造設計指針(案)・同解説(2002)」の概要について紹介があった。

- ・質疑では、強度や剛性における「同等」の考え方について、鉄筋継手の位置について、PCaと現場打ちでのひび割れ強度の違いについて、建築分野と土木分野でのコンクリートの引張強度の扱い方についての議論が行われた。

5. 話題提供（土木分野）：大島幹事（資料 1-5）

- ・道路橋示方書の 2017 年の改訂の内容について紹介があり、限界状態設計法を取り入れたこと、プレキャスト接合部での急激な力学的挙動の変化を防止するための方策とその裏付けとなった実験等の説明があった。
- ・質疑では、各示方書の違いについて、建築と土木での不静定次数の違いについて、プレストレス導入時の接合面の応力分布と終局強度設計の考え方についての議論が行われた。

6. 次回日程、今後の予定

- ・今年度の活動では、今後、全体委員会 1 回程度、WG を 2 回程度行う予定である。
- ・開催場所は、関西（京都、大阪あたり）を予定する。
- ・次回も話題提供を主として、3 時間を予定する。9 月か 10 月頃に開催する。

以上（記録 竹内）